

日本吃音・流暢性障害学会第4期役員選挙立候補者一覧(届出順)

No.	役職	氏名	所属	資格・役職名・学位等	略歴・専門・学会へのこれまでの貢献等	立候補主旨(所信表明)
1	理事	菊池 良和	九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科	医師、助教、医学博士	2001年より福岡言友会に所属し、言友会九州大会実行委員長を経験。言語聴覚士養成校との交流会を18年間、14回続いた九州・中高校生吃音者のつどいの発起人。吃音者の脳研究を行い、医学博士を取得し、3度受賞。14冊の著書、200回以上の講演会、吃音外来では500名以上の臨床経験。本学会設立の発起人の一人であり、毎年演者・座長として学会に参加し、学術論文の査読も行い、学会に貢献してきました。また、2022年から保護者・小中高生向けの情報交換の場として、吃音youtube liveを開催し100名以上の参加を得て、英語でも吃音の情報を海外に発信をしています。	私は今まで吃音に対して、個人で活動できる多くのことを行ってきました。しかし、本学会の目的である「吃音及び流暢性障害(クラタリングなど)の研究の発展と、これらの障害の研究や医療・福祉・セルフヘルプグループ活動などに関わる者同士の相互交流を図ること」への貢献もしたいと考え、立候補いたします。日本だけではなく、海外の吃音情報も発信・共有できたらいいと考えています。よろしくをお願いします。
2		川合 紀宗	広島大学	副理事・大学院人間社会科学研究所附属特別支援教育実践センター長・同研究科教授・音声言語病理学博士(Ph.D.)・米国音声言語聴覚協会認定言語療法士(CCC-SLP)・公認心理師	これまで副理事長として当学会の運営に携わってまいりました。また、規約委員として、本学会の会則・細則の制定や改正にかかる業務を、利益相反マネージメント委員として、研究倫理に関する検討や研究の利益相反(COI)に関する指針の制定にかかる業務を行ってまいりました。2018年には当学会と国内外の流暢性障害に関する学会、当事者団体と連携して実施した吃音・クラタリング世界合同会議in Japanでは大会長を務めました。	これまで理事として、規約等の整備のほか、国内外の研究者・当事者の連携推進を行ってまいりました。海外トップクラスの研究者の招へい等も引き続き実施してまいりたいと思いますし、当学会の実績や成果を開発途上国と共有し、こうした国における吃音臨床・研究の推進にも寄与していくなど、さらなる国際化に向けた取り組みを推進していければと考えています。
3		小林 宏明	金沢大学人間社会研究域学校教育系	教授、言語聴覚士、博士(心身障害学)	1999年筑波大学大学院心身障害学研究科終了、筑波大学準研究員、助手を経て、2002年より金沢大学に勤務。専門は、言語障害教育。学齢期を中心とした吃音のある児童生徒の評価・指導方法開発、通級指導教室における吃音を中心とした言語障害のある児童生徒の指導に関する研究等に従事。学会では、金沢大学で開催された第1回大会(2013年9月)事務局長を務めた他、2013年より現在まで理事(事務局長)を3期9年務めている。	私は、これまで、3期9年に渡り、事務局長として、微力ながら本会の運営の実務的な部分を担当させていただきました。本会は、研究者、臨床家、当事者、当事者の家族など様々な立場の方が、吃音・流暢性障害のある方のQOL(生活の質)の向上を目指し集まっています。この貴重な場が、今後も途絶えることなく次の世代に継承されていくよう、微力ながら力を尽くしたいと考え、立候補させていただきます。何とぞ、よろしくお願致します。
4		森 浩一	国立障害者リハビリテーションセンター	総長、医師、医学博士、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医	1981年、東京大学医学部卒業 1998年より現在まで国立障害者リハビリテーションセンター、2011年、成人吃音相談外来開設 2013年、学会創立メンバー、以降理事として学術誌編集委員会、クラタリングWG、渉外等を担当 2016年、第4回大会を国リハで開催。大会長講演「吃音の認知行動療法(CBT):吃音臨床のパラダイムシフト」 2018年、世界合同会議(第6回大会)基調講演「認知行動療法を使った成人吃音のグループ療法」 2022年、「幼児吃音臨床ガイドライン」を代表者として発行、同ワーキンググループ設立、担当理事	本学会では多数の専門家や立場の違う人が吃音という共通項のもとに情報を交換し、議論することで、他の学会では見られないような深く深い学びがあります。吃音の報道が増えてきましたが、社会での本学会の役割もますます重要になると思います。 幼児吃音臨床ガイドラインは、他学会のホームページでも紹介され、マスコミでも取り上げられました。今後の3年間では、その普及活動と、5年後の第2版を目指した改定作業を進めます。学会誌の充実も進めていきます。これらに小生の経験が役に立つと信じ、立候補しました。よろしくお願ひ申し上げます。
5		原 由紀	学校法人北里研究所 北里大学 医療衛生学部	言語聴覚士・准教授・医科学博士	2013年の本学会の設立に関わったメンバーの一人です。 講習・研修委員会およびプログラム委員会の担当理事として、大会の企画運営、プレ・ポストコングレスの企画運営に携わってきました。第7回大会長も務めさせていただきました。昨年度は初めて大会以外でのオンライン臨床セミナーを開催し、コロナ禍での研修活動に手応えを感じております。 言語聴覚士、養成校の教員としても、各領域への橋渡しに努めております。	設立から8年を迎え、本会の会員数は300名を超え、様々な会員の方が加わってくださり、研究・交流・情報発信・共有と活動も広がってきています。 「研究を通じて、臨床の進歩・発展を図り、吃音・流暢性障害のある人々のQOLの向上を目指す」という本会の目的のために、行えることはまだ多くあると考えています。会員が活発に学び、意見交換できる場、さらに、非会員も加わりたくなる場を提供し、吃音・流暢性障害に関する理解が拡大することに尽力したいと考えております。
6		斉藤 圭祐	特定非営利活動法人 全国言友会連絡協議会、おおさか結言友会	特定非営利活動法人 全国言友会連絡協議会 理事長、精神保健福祉士	吃音当事者として言友会に所属し、セルフヘルプグループ(以下、SHG)活動をしています。全国言友会連絡協議会では、SHG活性化(新規の言友会設立など)、吃音がある人への社会的支援(啓発活動、行政・他障害者団体との連携など)に取り組んでいます。当学会では第1回大会より当事者・SHGの企画に携わる他、2018年広島での国際会議では中心的に運営に携わりました。また、学会設立当初から広報の担当理事を担っています。	吃音・流暢性障害のある人々のQOL向上のために、吃音当事者およびセルフヘルプグループ活動に関わる者としての視点・意見を持ち、当学会の運営に引き続き関わっていきたくと思います。また、学会大会では今後も当事者・セルフヘルプグループ関連の企画に携わることにより、研究・医療・福祉などの専門家と吃音当事者の「協働の架け橋」として、その役割を担っていきたくと思います。
1	監事	松尾 久憲	特定非営利活動法人 千葉言友会	理事長	学会の設立時よりの会員です。現在、学会の監事を務めて3年目になります。 言友会歴は20数年ですが、過去の大会では、その中での活動を当事者としての立場で発表したことがあります。本学会は吃音の専門家・臨床家と当事者が対等に参加するのが特徴ですが、会員数も次第に増えてきていて、なお一層の大きな役割が期待されています。	本学会の監事を務めて3年目ですが、会の運営には会計の健全化が不可欠です。近年、会員の増加に伴い予算規模は大きくなってきていますが、さらに新型コロナウイルスによる活動の縮小などで期末財産が大きくなる傾向にあります。財産の適切な管理に務めること、今後それを有効に活用すること、共に大事になってきています。 当会の目的を果たすために、今後事業活動が活発化されていくと思いますが、そのための適正な運営に寄与できればと思います。
2		西田 立郎		言語聴覚士	ことばの教室担当時に学会入会、学会大会後のハンズアップセミナー等の講師を担当。 前期役員会構成において、監事を担当。	引き続き、学会の発展のために微力ながらも尽くしたい。